

◎妊娠検査薬(尿中hCG 定性)について

- ・着床後5日目ごろから絨毛(胎盤)で産生されるhCG を検出
- ・性交後 3～4 週で概ね陽性
- ・偽陰性になりやすい
- ・流産、異所性妊娠の場合は正常の経過よりhCG 産生が低いことがある



- ★ 緊急避妊の成否の確認時期は「服用3週間後」(≡妊娠していた場合の5週目)に
産婦人科受診(または妊娠キットによる検査)を行う必要がある。



検査結果で偽陰性を呈するケースで問題となること

① 通常妊娠している場合がある(まれだが)

検査時期が早すぎる、着床の遅れや排卵日のずれ、検査の誤差の濃さなどによって精度が低くなる可能性があります。

② 異常妊娠している場合がある(そもそも偽陰性を呈しやすく、月経と間違いやすい出血がある)

・流産の場合

自覚症状がない場合や、**出血**や腹痛が続く場合など様々ですが、胎児や胎盤の一部が子宮内に残っている場合があり、放置すると感染症のリスクが高まります。感染が全身に広がり、**敗血症という命に関わる状態になることがあります**。腹痛、性器出血、発熱が続く場合は、速やかに医療機関を受診する必要があります。

いずれにしましても、治療には子宮内容除去術が必要になることが多いです。

診断: 超音波検査により診断されます。

・異所性妊娠の場合(hCG の上昇が緩やかである場合がある)

異所性妊娠では、子宮内膜以外の場所(95%卵管内)に受精卵が着床するため、胎児は生存できません。多くの場合、妊娠初期に**出血**や腹痛が起こります。

着床部位(特に卵管)が破裂すると、大量出血が起こる。大量出血は母体の命に関わる危険があります。

月経と勘違いしやすい妊娠中の出血について(妊娠初期)

◎着床出血 (全ての妊婦に起こるわけではない。)

受精卵が子宮内膜に着床する際に起こる。生理予定日頃に少量の出血。軽い腹痛を伴う。

◎絨毛膜下血腫

胎囊の周りに血液が溜まる状態。

◎異所性妊娠

受精卵が子宮以外の場所に着床。激しい腹痛やめまいを伴う場合、危険な状態。

◎胎状奇胎

受精卵が正常に育たない異常妊娠。長くつわりが続くこともある。

◎子宮頸管ポリープ、子宮腔部びらん

子宮の入り口部分の炎症やポリープ。刺激により出血しやすい。